

桃園第二小学校改築推進委員会 要 点 記 録

第 4 回

開 催 日 時		令和6年7月4日(木) 午後6時30分～8時13分
開 催 場 所		昭和区民活動センター
出席者	委 員	須藤直樹、飯村悟、大月啓介、荒山幸次郎、佐藤清一郎、 太田晃子、三浦絵莉子、矢島寛典、石井よしみ、荻野嘉彦、 古賀野さやか、小田嶋歩、中村笑子、山田研二、計良真美、 渡邊健治、藤永益次 (敬称略、名簿順)
	事務局	学校再編・地域連携係、子ども教育施設整備係
会 議 次 第		【議事】 1 桃園第二小学校校舎等整備基本設計の検討について

第4回 桃園第二小学校改築推進委員会 会 議 要 旨

1 開 会

委員長

これより第4回桃園第二小学校改築推進委員会を開会する。本日、傍聴希望者はいない。

2 報 告

(1) 改築推進委員会委員の変更・追加について

委員長

議事に入る前に、資料1のとおり委員に変更・追加があったため、事務局より紹介する。

事務局

委員紹介及び自己紹介

桃園第二小学校 PTA

太田 晃子 委員

昭和・東中野地区 主任児童委員

古賀野 さやか 委員

桃園第二小学校校長

山田 研二 委員

3 議 事

議事(1) 桃園第二小学校校舎等整備基本設計の検討について

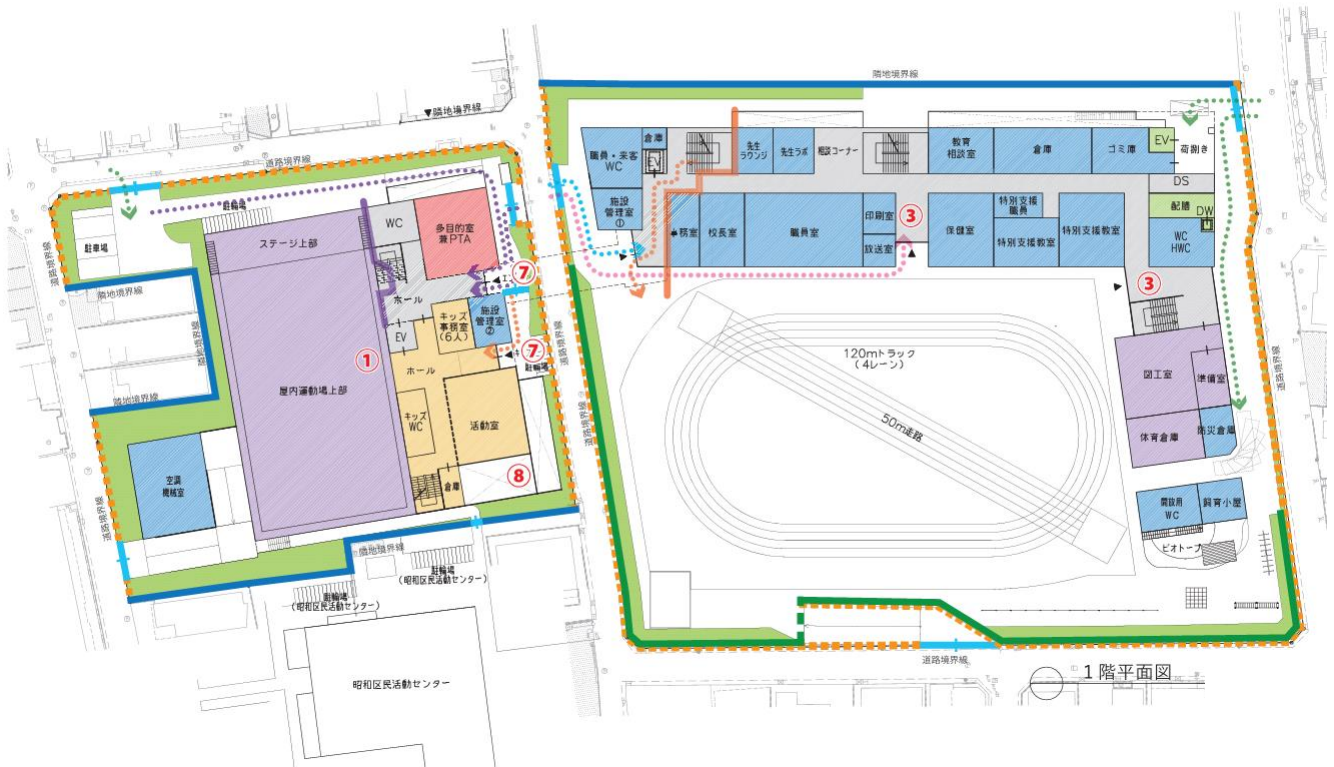
委員長

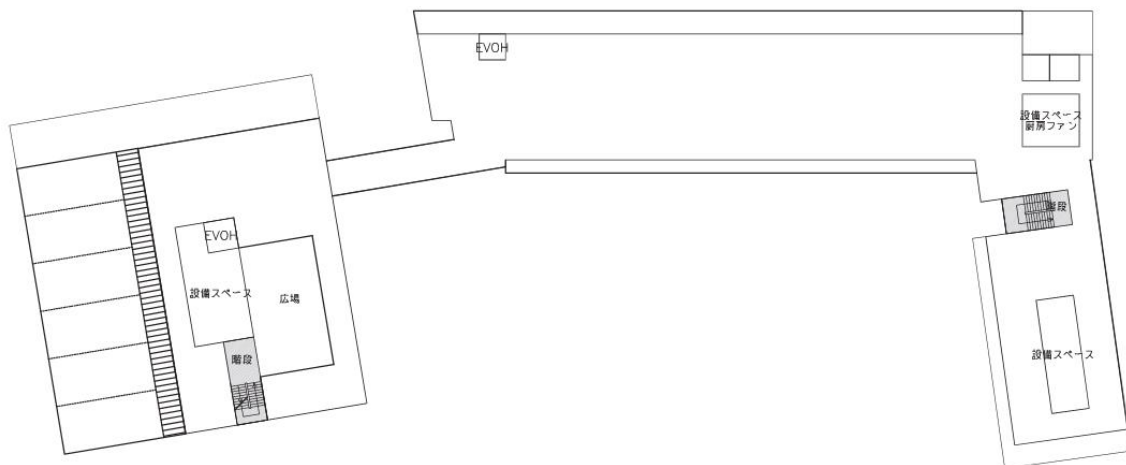
議事に入る。「桃園第二小学校校舎等整備基本設計の検討について」、事務局の説明を求める。

子ども教育施設課長

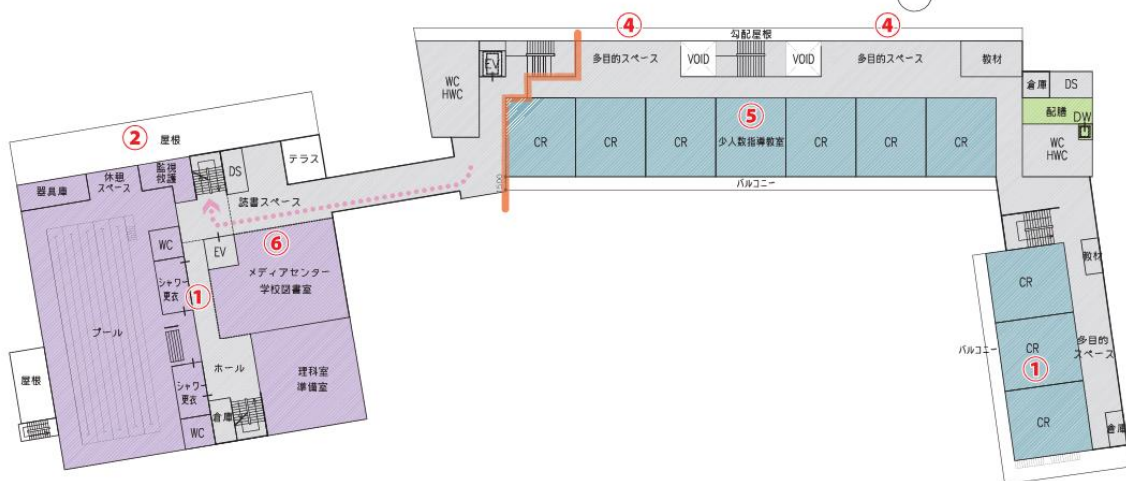
基本設計（案）について説明する。新校舎整備のスケジュールとしては、前回までが基本構想・基本計画、現在が基本設計、次が実施設計で、その後、令和8年度から令和11年度に新校舎改築工事を行う予定である。工事期間は仮校舎として旧中野中学校を使用する。新校舎供用開始は令和12年度を予定している。資料4の平面図は基本設計（案）で検討した内容である。

資料4

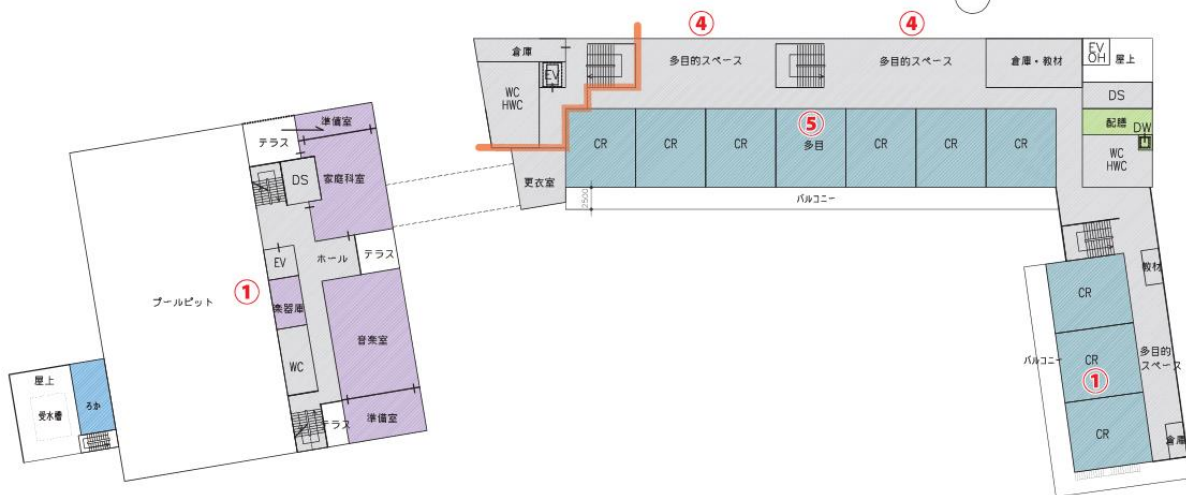




屋上平面図



3階平面図



2階平面図

■凡例

【外構】

- 防球ネット
- 門扉
- メッシュフェンス
- 目隠しフェンス

【動線】

- 地域開放
- キッズ
- 児童
- 職員・来客
- 車両

【セキュリティライン】

- 地域開放
- キッズ



桃園第二小学校新校舎等整備基本設計（案）

資料 5

■建物概要

- ・延面積：8,800 m²程度
- ・校庭面積：2,800 m²程度（内人工芝 2,170 m²、ゴムチップ 300 m²、犬走等 330 m²）
- ・階高：3.2m
- ・最高高さ：9.9m

■基本計画からの主な変更点

- ① 屋内運動場棟を南北軸配置とし、特別教室を校庭側、東校舎の普通教室も同様に校庭側配置に変更することで、全教室から学校全体の活動が見渡せ、児童の交流を促進し、見守りによる安全性を向上させます。
東校舎の西向き教室は西日に配慮してルーバーの設置を検討します。
- ② 住宅への騒音・プライバシーに配慮し、屋内運動場棟の北側に開口のないステージを設け、3階部分をセットバックすることで北側住宅への日影や圧迫感を低減する計画とします。
- ③ 児童の移動時間の短縮のため、校庭からの児童出入口と階段を近接配置とします。
- ④ 校舎北側を傾斜屋根（ハイサイドライト）とし、全学年に多目的スペースを確保し空間を有効活用します。
- ⑤ 中央棟のスパン割を6から7スパンへ拡張することで、教室数をより確保します。
- ⑥ 特別教室同士の連携を考慮して、西校舎の2階3階の配置を変更します。日常動線に近い位置に図書室、理科室を配置。メディアサイエンスセンターとして連携を強化します。
- ⑦ 屋内運動場棟の開放施設・学校・キッズ入口は東側に設え、住宅側に人のたまりができてにくいように配慮します。
- ⑧ キッズプラザ、学童のエリア（1階とB1階）を吹き抜けでつなぐことで開放的で管理のしやすい設えとし、サンクンガーデンを設けることでB1階に太陽光を取り込んだ快適な環境を確保します。

る。ちなみに盆踊りなどのやぐらは、人工芝でも板等を敷設することで設置可能と考えている。

委員長

補足だが、現在校庭と犬走りとで段差があるが、なるべくフラットにすると聞いている。また、校庭は現在同様、若干南側に向かって傾斜しているとイメージいただきたい。子ども教育施設課の説明について、委員から質問・意見はあるか。

委員

人工芝はやめてほしいが、変更できないのか。この段階で具体的にイベントの制限の話が出てきたが、できなくなることが多くデメリットが大きすぎる。例えば、おやじの会が主催するキャンプファイヤーは人工芝ではできなくなるとのことだが、おやじの会の総意としては続けたいと思っている。その他にも、校庭で花火など色々なことをしているが、全てできなくなるとするのは非常にもったいないし、残念である。また、人工芝は飲食禁止なので町会等の飲食を伴う多くの行事もできなくなる。他の学校改築推進委員会では、反対の意見書も出ているのに、当委員会では校庭は人工芝とし、地域の行事も一部可能と説明するとはどういう判断の違いなのか疑問である。

子ども教育施設課長

火気を伴うイベントは、やはり人工芝では芝が溶けてしまうのでできない。ただ犬走りでは火気使用可能である。飲食は、シート等を敷設することで対応していただくことを考えている。他の委員会でも同じ説明をしている。

委員長

人工芝でなければ一足制は成り立たないのか。

子ども教育施設課長

区としてはそう考えている。

副委員長

そもそもなぜ人工芝なのか。委員からは地域行事を中心に話があったが、学校なので、子どもたちのためにどのような理由で人工芝としているのか説明がないと納得できない。

子ども教育施設課長

雨で校庭にぬかるみが発生して体育ができなくなることを防げることや、近隣に砂塵が舞うのを防ぐなど、メリットがある。

副委員長

今の校舎でも水はけがよく、ぬかるみは発生してない。

子ども教育施設課長

土の校庭は、劣化により水はけが悪くなる可能性もある。人工芝ではそういったことがなく、雨が降ったあと2、3時間後にはほとんど乾いて体育ができる。子どもたちの怪我も少ないと言われている。メンテナンスも軽減され、教育的にはメリットが高い。

副委員長

都内で土の校庭は貴重である。子どもにとって、怪我が少ないことが良いことなのか。土と人工芝で怪我の差があるとすれば擦り傷程度であり、骨折や打撲に関しては関係ないと思う。雨が降ったら泥ができると思うのも、教育ではないか。できれば自然のものが残っているほうが良いと思うが、学校としてはどういう考えか。

委員

メリットもデメリットもあり難しい。前任の学校は人工芝だったが、確かに運動がしやすく、トラックやコースのラインが引いてあるので準備にかかる時間も減り、体育をする上ではメリットがあったと感じた。桃園第二小も、水はけは良いほうだが、やはり水たまりやぬかるみが発生して整備が必要になったり、砂ぼこりが起きないようにスプリンクラーを回さないといけなくとも多いので、そういった面では、人工芝の方が運動しやすいと考える。ただデメリットとして、人工芝はとても暑くなるので、それをどう解消するのが課題である。

委員

体育の専門としては、やはり人工芝は体育はしやすい。6年生の組体操では、まず体育館でマットを敷いて練習することが多いが、校庭が人工芝の学校では、人工芝だと怪我をしにくいということで、最初から校庭で練習できた。人工芝では、遊びの中で逆立ちやでんぐり返しなどが行われていたり、体育でも三点倒立や逆立ちをしたりと、土の校庭ではできないことができた。校庭にラインが引いてあるので、その分教具の準備など子どもたちのためにできる時間が増え、ライン用の石灰の費用を別のところに有効活用することもできる。また、一足性なので靴の履き替えがなく、すぐに子どもたちが教室に入れるのも良かった。ただ、桃園第二小では、地域とのつながりが強いからこそ子どもたちが素直に育ち、地域のイベントが子どもたちを支えているという部分も大きいので、どちらが良いか判断は難しい。

委員

人工芝だと劣化はないのか疑問である。また、世界的に海の浮遊物として人工芝が問題になっているので、環境への配慮も考えると、人工芝よりも土の校庭を残すことも良いと思う。毎年、運動会でテントを張っているが、テントの設営も人工芝だとできないのか。

委員

人工芝でもテントを張ることは可能である。

子ども教育施設課長

火気を使う場合のテントは犬走りに限られるが、普通のテントは校庭に張れる。

委員長

例えば中野区の条例などで、絶対に人工芝にしなければいけないというわけではないのか。例えばここで、どうしても土の校庭が良いという方針になった場合、変更は可能なのか。

子ども教育施設課長

区の小中学校施設整備計画で、人工芝にするという方針を示している。土の校庭とする場合、下駄箱スペースが必要になるので、設計の大幅な変更になる。

委員

飲食はシートなどを敷けば可能とのことだが、校庭全面に敷くのは難しい。お祭りではどこでも飲食するものだと思うが、どういう想定をしているのか。

子ども教育施設課長

一部のエリアにシートを敷いて、そこを飲食スペースにしてもらうことを考えている。この人工芝はかなり上質であり、スポーツドリンク等をこぼすとべたついて駄目になってしまうので、そういうことを避けるためにシートを敷いて飲食いただきたい。

委員

人工芝になると、少年野球もできなくなるのか。

子ども教育施設課長

野球はできるが、金属製のスパイクのついた靴は使えない。

委員

桃園第二小で活動している少年野球チームは、以前は新井小も使っていたが、新井小が人工芝になってから使えなくなった。学校判断ということだが、区の意向を受けて判断をしていると思うので、桃園第二小もできなくなるのではないかと心配である。この地域は遊び場や運動の場がないので、校庭も使えなくなるのであればそこまでして人工芝にする必要があるのか疑問になる。

子ども教育施設課長

他校では人工芝でも野球をやっているという事例もあるので、問題はスパイクだと思う。

委員

そういうことを学校に言って開放していただきたい。そういった連携もされていないし、資料にその想定もない。もっとそれぞれの地域性を見た上で進めてほしい。

委員

スパイクは駄目とのことだが、祭りの際の下駄はどうかなど人工芝について分からないことが多く、納得できる教育的なメリットが少ない。怪我が少ないというが、我が家の子どもは今の校

庭でもそれほど怪我をしていない。また、人工芝は健康への被害はないのか。例えば水質のP F A Sが問題視されているが、人工芝の製造過程でもP F A Sを使っているというので心配である。
子ども教育施設課長

他自治体でも人工芝を導入しているが、健康被害については聞いていない。

委員

今はまだ健康被害はなく、因果関係の証明はされてはいないと思うが、今後、規制がかかってもおかしくないと思う。私は人工芝に否定的ではないが、子どもに対する影響は心配である。

子ども教育施設課長

現時点ではデータがないので、今後注視する。

委員

現在、中休みや放課後の校庭開放で、竹馬や一輪車が流行っているが人工芝の上でもできるか。また、昭和地区委員会のミニリーダー講習会でやっている花火ができなくなるのを懸念している。文園児童館で火起こし体験等をしているが、児童館が民間委託されるとそれもできなくなる可能性があり、子どもたちが自然体験できなくなってしまう。我が家の子は中野東中学校で、人工芝はすごく良いと言っているが、静電気がひどく、運動部の子たちはスライディングするとすぐジャージに穴が開く等ということがよくあるそうである。そういったことは考えているのか。

子ども教育施設課長

花火は犬走り部分でやっていただく。竹馬についても、ゴムチップの部分などでやっていただけると思う。暑さ対策としては、スプリンクラーの設置により対応することを考えている。

委員

ハードルの授業や自転車教室はできるのか。

委員

前の学校でハードルはやってしたが、自転車はわからない。消防写生会などで校庭に車両を入れる場合は何十万もかけて鉄板を置かないといけない。

委員

消防写生会は、校庭でなくてもスペースさえあればできるだろう。

委員

一足制により昇降口の下駄箱スペースを減らすことで、この敷地内で教室を確保しているので、もしここで昇降口のスペースが必要となると、必要な教室が確保できるか心配である。土ならではの良さがありイベントのことなどを考えると土の校庭も良いと思うが、学校としては体育や授業における人工芝のメリットも感じている。

委員長

やはり土の校庭が良いと取りまとめる場合は、いつが期限か。

子ども教育施設課長

その場合、設計のやりなおしとなり、設計費用のために補正予算を組む必要も出てくるので、スケジュールが全く変わる可能性がある。

副委員長

一足制にするには人工芝でないと絶対駄目なのか。

子ども教育施設課長

土で一足制だと、雨天時に靴についた泥が校舎内に入ってしまう、衛生上の問題がある。

委員

ある区議会議員に聞いたところ、あくまで今は検討段階で、設計も含め確定事項ではないので、変更できないということはあり得ないと言っていたのに、変更は時間もお金も余計にかかるから難しいというのは、おかしいのではないか。

子ども教育施設課長

基本計画の段階であれば変更可能だが、基本設計の段階では大幅な変更は難しい。二足制に変更する場合、下駄箱スペースのために他部分の部屋割りを変えるなど大幅な変更が必要となる。

委員長

現時点で皆さんどちらが良いか判断できるか。地域の立場からすれば、行事をしやすい土の校庭も良いと思うが、多くの時間を使う子どもたちにとっては、必ずしも土が良いとは思えない。人工芝であれば周辺へ砂が飛ぶこともなくなる。どこで折り合いをつけるか難しい。

委員

今回この資料を見たときに、人工芝の導入は決定していたのかと疑問に思った。学校や児童へのメリットや、できなくなることはあるがそれ以上のものが享受できるというような説明が明確ではなく、どちらが良いか今決めることは難しい。

委員長

基本計画の段階で、人工芝について説明がありキャンプファイヤーができなくなるという話も出ていたが、議題として挙がっておらず具体的な説明もなかったので意見も出なかったのだろう。

子ども教育施設課長

区としても地域のイベントを全部やめてもらうことは考えていない。今回、教育の場としてこういうものをつくりたいが、地域活動の場であることは重々承知しているので、こういう工夫をして対応いただきたいということを示した。区としてはこの基本設計（案）で進めたいが、今日出た意見を受けて改めて検討する。

委員

人工芝の検討が長引くことで、中野中学校の耐震工事などが遅れることはないか。

子ども教育施設課長

それはない。

委員長

菜園や飼育小屋が必要なのかも聞きたいがどうか。

委員

一足制の分、教室など子どもたちの有効スペースができるのは良い。ただ校庭が全面人工芝となって理科や生活科で実際に使っている畑や水田がなくなるのは困るのでそれは残してほしい。また、学校の歴史のシンボルとなるものを何かしら残していけるようなアイデアを出していただきたいと思っている。新たな飼育小屋をつくるよりもそういったものがあると良い。

委員長

飼育小屋は、設置しなければいけないというものではないのか。

委員

ないと思う。飼育小屋と畑とどちらが必要かと問われたら、学校としては畑が良い。

委員長

その点の設計変更は可能か。

子ども教育施設課長

可能だと思われる。

委員

体育館の向きが基本計画では東西だったものが南北に変更となったが、どのような経緯か。

子ども教育施設課長

図書館や理科室等の特別教室を、東側校舎と隣接しているところに持ってくるためである。

委員

現校舎ではステージは南側にあるがイベント時は音が漏れる。北側にステージを持ってくると更に音が漏れると思うが、北側住民に対して、どう対応するのか。

子ども教育施設課長

日常的にはステージは使わないので、子どもたちの環境を優先に考え、東側校舎と特別教室とのアクセスが良く、教室から校舎全体を見渡せる、こちらの設計が適切と考えた。

委員

委員に説明がないまま設計変更したのだから、校庭の問題も委員の意見を汲んで設計変更して

も良いのではないか。

委員長

設計会社が入り、より良いのはこの南北の配置だという結論になったのではないか。体育館は地下で、北側にステージを配置すれば南側に向かって音が出るので、防音の面では良いと思う。本当は、昨年度委員会があれば良かったが、設計会社が決まらなかったで延びてしまい、今日基本設計（案）が出てきたという背景がある。校庭の問題で更に遅れても良しとするかは皆さんの判断次第だろう。西校舎のキッズ・プラザと学童クラブの配置も変わった。これは住民説明会で北側住民から北側に出入口があるのは良くないとの意見があり、東側となったものである。キッズ・プラザと学童クラブについて質問・意見はあるか。

委員

スペースをもっと増やして欲しい。

子ども教育施設課長

キッズ・プラザと学童クラブのスペースは、変更はしていない。

委員長

私はキッズ・プラザと学童クラブを分けて欲しい。学童クラブの標準的な1人当たりのスペースは1.65㎡ということだが、新校舎の学童クラブでは何名が望ましいか。

育成活動推進課長

このブロックプランでは面積が出ていないため、何名まで可能かは出せないが、当課の要望としては、少なくとも現在の桃園第二学童クラブの定員が確保できるスペースをお願いしている。

委員

桃園第二学童クラブの定員は今年また増員した。来年度も恐らく増えると思う。登録はしているけれどもお休みしている児童もいると聞くと、定員分のスペースは確保するべきだ。更にキッズ・プラザのスペースも必要だが、この面積で本当に足りるのか心配である。

育成活動推進課長

現在の桃園第二学童クラブは76名在籍しており、新校の学童クラブの定員は80名確保したいと考えている。このブロックプランでは1階にキッズ・プラザの活動室があるが、もう1室あることが望ましいので、多目的室も使用できるかなど学校とも協議して場所を確保したい。

委員

白桜小学校のキッズ・プラザでは家庭科室を使っていると聞いている。このブロックプランでも家庭科室なら上の階にあるので使いやすいと思う。キッズ・プラザとのセキュリティラインはどのようなものか。人の配置やパーティションの設置などはあるか。

育成活動推進課長

セキュリティラインについては検討中である。

委員長

設計会社として、学童クラブのスペースとして80名×1.65㎡分の面積はとれそうか。

INA新建築研究所

これから家具など細かい仕様を決めていくので、有効人数もそれから調査検討する。基本設計が決まってから詳細な実施設計に入るので、スケジュールはまだ決まてはいないが、区と調整して決めていく。

委員

それで足りなかった場合、どうするのか想定はあるか。

子ども教育施設課

基本計画で想定したキッズ・プラザのスペースは共有部分や機械スペースなども含めて合計450㎡ぐらいで、基本設計（案）でも大体同じぐらいを想定している。これまで整備してきた他の新校舎のキッズ・プラザ、学童クラブは大体600㎡弱なので150㎡ぐらい狭い。ただ、ここは第一種低層という土地の制限がとても激しいところなので、これ以上キッズ・プラザや学童クラブのスペースをとるのは難しい。人数はこの面積で考えていただくことになる。

育成活動推進課長

今の見込みでは、80名定員であればこの地域の学童需要は充足できる見込みなので、80人確保できるスペースを要望しているが、施設的な制限があるので施設に見合った定員にせざるを得ない。他で賄うことができるかも考えていかないといけない。桃園第二学童クラブは今年から76名に定員を増やしたが、もう施設的に一杯なので、これ以上は増やせないと考えている。

委員

我が家の子はにじいろ学童クラブに入れたが、新校舎になったら新校舎の学童クラブに入れたいと思っている。働く親も増える中、定員はこの人数でいいのか疑問である。桃園第二学童クラブだけでなく、地域全体の需要数を考えての計算をしたほうが良いだろう。

委員

白桜小学校もにじいろ学童クラブがあるが、多くの人はキッズ・プラザがある学童クラブを希望するので、定員60人ぐらいのところ10数人しか通っていない。それと同じことが桃園のにじいろ学童クラブで起こってしまうのではないかと懸念している。

育成活動推進課長

キッズ・プラザが出来ると、その学童クラブを希望する方が多くなるのは把握している。キッズ・プラザがあるところで定員100名という大規模な学童クラブもあるが、学校から直接行けることもあり、非常に人気が高い。一方で、大人数がいるところではなく小規模なところや、延長を長くやっている民間の学童クラブを選択する家庭もある。にじいろ学童クラブは定員に余裕があるのも把握しているので、キッズ・プラザ併設の学童クラブで賄い切れない場合は、そういった民間学童クラブを案内したり、学童クラブでなくても過ごせる学年の児童については、放課後の居場所としてキッズ・プラザや、児童館の案内もしていきたいと考えている。

委員長

本日、具体的に80名を要望していると説明があったので、少ないスペースでどう対応するかという検討を今後していければ良いと思っている。他に何かあるか。

委員

校庭のトラックは120mとなっているが、現在のトラックは何mか。

委員長

80mだろう。

委員

例えばリレーなどで体力的に120m走れるのか。

委員

例えば中学年のリレーで1周は少し長いので半周にするなど、実態に応じて行うことになると思う。

委員

大人でも長いと感じるので120mトラックにする意味があるのか疑問である。また、学童クラブは、 $1.65\text{ m} \times \text{定員 } 80\text{ 名}$ なら単純に 130 m^2 程度あれば足りているのではないのか。キッズ・プラザを含めても 450 m^2 あるならば足りるように思える。

育成活動推進課長

基本計画から配置を変えたことで、部屋数も増えていると思う。図面に面積が入っていないので、これが何 m^2 で何名まで可能かは分からないが、2部屋確保できているということは、当課の希望を一定程度聞いてもらったと思っている。

委員

現在、平日の放課後に校庭を遊び場としているが、キッズ・プラザができた場合、それはなくなり、放課後はキッズ・プラザの管轄の中で校庭を使うという方向になるのか。例えば高学年の子でもキッズ・プラザに登録すれば、放課後に校庭で遊んだり、雨の日は室内で過ごしたりできるということか。

育成活動推進課長

そうである。

委員長

校庭の問題については、どのように解決すべきと考えるか。

子ども教育施設課長

区としては、今回基本設計を固めて、実施設計に進みたかったが、人工芝よりも土の校庭が良いという意見が出てきたので、持ち帰って検討し、改めて推進委員会を開催したい。

委員長

委員の皆さんも各自どちらが良いか考えていただき、質問があれば事務局へ連絡していただきたい。事務局はなるべく早く次の推進委員会を開催できるよう調整してほしい。

本日の推進委員会はこれをもって終了する。